

会 議 録

会議の名称	令和5年度 第2回 飯塚市上下水道事業経営審議会
開催日時	令和6年3月27日(水) 14:00 ~ 15:20
開催場所	飯塚市役所 穂波庁舎 2階 203会議室
出席委員	青柳委員、赤間委員、久家委員、佐藤委員、杉委員、河委員、馬奈木委員
欠席委員	麻生委員
事務局職員	石田慎二企業管理者、今仁康企業局次長、田中善広企業管理課長、大庭宗嗣上水道課長、西岡真結下水道課長、永末良一上水道課長補佐、渡邊勉上水道課長補佐、大谷剛下水道課長補佐、手柴弘美企業管理課長補佐、山上友典財務係長、高橋秀太経営係主任、本井淳志参与
会議内容	議題1 令和6年度水道事業等の予算について 議題2 今後の汚水処理について
会議資料	資料-1-1 公営企業会計 令和6年度 飯塚市水道事業会計予算 資料-1-2 公営企業会計 令和6年度 飯塚市工業用水道事業会計予算 資料-1-3 公営企業会計 令和6年度 飯塚市下水道事業会計予算 資料-1-4 令和6年度飯塚市公営企業会計予算書 資料-1-5 令和6年度飯塚市公営企業会計予算資料 資料-1-6 資料1-1、1-3 補足資料 資料-2-1 汚水処理構想について 資料-2-2 遠賀川中流流域下水道への接続可否の検討について
公開・非公開 の別	1 公開 2 一部公開 3 非公開 (傍聴者 0人)
その他	

会議内容

1 議事

(1) 令和6年度水道事業等の予算について

○事務局より各事業（上水、工水、下水）について、資料 1-1～1-6 を用いて説明

●上水

・資料 10 ページに「総務省からの要請により…」との記載があるが、これは水道事業の運営を民間委託するようにとの要請なのか。

→既に策定済みの経営戦略を改定するようにとの要請内容である。

・国としても事業の民間委託を推進していると思うが、市が主体として事業実施するほうが効率的であると思う。水道は生活と直結するものなので、導入は慎重に考えてほしい。

●工水

・現在接続しているのはどのような企業か。

→日本タングステン(株)、(株)大塚石材、沢井製薬(株)、(株)スズキ納整センター、(一社)飯塚市スポーツ協会、九州白水(株)の6者である。

●下水

・下水道整備のなかで、水洗化戸数が年々200から300戸程度増加しており、これは主にマンション建設等による効果だと思いが、飯塚市全体としてこれ以外の増加要因はあまりないというイメージで考えてよいか。

→下水道事業区域は以前縮小したが、今後は経済性等を鑑み、汚水処理構想のとおり鯉田地区の一部等に公共下水道を整備する予定としている。ただ、従前の区域縮小の影響もあるため、今後劇的に水洗化戸数が増えるということはない。

・あり方検討業務委託に関して、これは下水道単体の支出ということか。あるいは上水道下水道でそれぞれ予算計上しているのか。

→水道事業と下水道事業における検討業務を一括して発注するため、予算はそれぞれで計上している。

金額は令和6年度で上下水合計して約2,300万円であり、内容としては経営戦略策定前の投資財政計画の策定を行うが、専門の職員が不足することから、外部委託により業務支援を受けることで、職員の知識醸成を図ることも目的としている。

(2) 今後の汚水処理について

○事務局より、資料2-1及び2-2を用いて説明

●汚水処理構想について

(意見等なし)

●遠賀川中流流域下水道への接続可否の検討について

・汚水処理能力的には流域下水道の方がいいということか。

→高度処理を行い、リンや窒素を除去しているため、終末処理場と比べると上の処理となる。

・費用面でみると、終末処理場更新の方が有利ということか。維持管理等についても単独の方が融通が利くと思う。

→費用面ではその通り。流域下水道は県が管理しており、終末処理場は飯塚市で管理しているため、融通は利く。

・高度処理を行っている流域下水道への接続ということに対して、国や県から交付金や補助金が出るということはないか。

→改築等についての補助金はあるが、終末処理場更新に対する補助割合と変わらない。

・瀬戸内海のように、リンや窒素の排出を減らしすぎたため、海水が綺麗になりすぎて生き物の栄養が不足するといったような事例もある。高度処理が必ずしもいいと一概に言えないのが難しいところではある。

・前回の下水道事業区域の変更で、区域外となった地域の方が浄化槽を設置する場合に補助対象となることを知らないケースがある。今後そういった予定があれば、早めに周知してもらいたい。

(3) その他

○次回の開催予定について説明

以上